

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。先日2025年ノーベル賞受賞したノーベル生理学、医学賞を大阪大学特任教授の坂口志文氏、ノーベル化学賞を京都大学特別教授の北川進氏がそれぞれ受賞致しました。

お二方が口にした「運・鈍・根」、成功者として大成できた要因との事。賢く立ち回らず、鈍感なくらい根気よく腰を据えて続けると、運が開けるといふ事をモットーにされていたとの事。誰にも理解されず、笑われ、疑われていた時間を仲間や家族に支えてこられたとの事でした。何らかの目標に向かって行く信念が素晴らしいと感じました。朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたので、皆様お身体をご自愛ください。

## サンライズの物語

### 「母の願い、娘の想い — 最期まで自分らしく生きたひと」

#### 独り暮らしの母を支えた日々と、永遠に続く親子の絆の物語



その方は、独居で暮らしており子供は一人娘さんが居た方でした。様子が異変があり脳神経外科を受診したのですが、膠芽腫（悪性脳腫瘍）余命数か月との診断だったのです。

都立病院へも再受診しましたが手立てがないとの診断でした。自宅へ戻り介護保険サービスで支える事となったのです。娘さんも毎日遠方から訪問し付き添っていたのです。病状は坂を転げ落ちるような勢いで進んでいきました。ご家族は施設入所を希望されておりましたが結果的にはほぼ決まりかけていた施設への入所は間に合わなかったのです。

そんな中、娘さんが泊り込み見守るなか永遠の眠りについたのです。生前ご本人様からは「私は最後までここにいたい」との希望がありましたが、ご本人様の思いが叶った結果となりました。

後日娘さんからお母様の生き様について話があり、「母親は母ではなく女性として生きた人。私は親戚に育てられた。」親戚の方も「自分の好きなように生きてのだから良い人生だったと思います」と誰もご本人様を責めるような発言はなく「困ったけど憎めない」といった印象を受けました。いつもお会いするとおしゃべり好きで話の止まらない素敵な方でした。

最愛の家族との別れは突然に訪れます。親を思う時に小さい頃からの母親の印影を探しながら看取る辛さ、悲しさ、誰もが避けては通れないことだと思います。そして最後は母親への感謝が心を埋めてしまう・・・親子の関係とはなんと不思議な縁で繋がっていて親子の縁は切ろうと思っても切れない・・・そんな思いに駆られたのです。

## サンライズのデイサービス陽光だより



**お誕生日** 皆さんでお誕生日の歌を歌って誕生日カードをプレゼントさせていただきました。おやつに手作りパンケーキをお出ししました。



**カレンダー工作**  
チラシや折り紙等でみのむしを作り画用紙に貼り付けて作りました。



### NEWS 今月のニュース

#### 地域とつながる秋まつりが開催 「子ども縁日 with i-ze」

「SOMPOケア ラヴィーレ府中（以下ラヴィーレ府中）」にて秋まつりが開催されました。介護付有料老人ホーム・特定施設入居者生活介護の機能を持つラヴィーレ府中さん。介護・看護・医療の各専門職が連携し、24時間安心のチームケアを提供されています。秋の彩りの花や秋らしいどんぐりやトンボが会場の雰囲気をごくと盛り上げていました。スタッフさんにお話を伺うと、スタッフさんはもちろん、入居者さんも作られたと

のこと。その手先の器用さに驚きました。「縁日」ということで、この日は大人も子どもも楽しめる遊びが用意されていました。スタッフさんも動物の着ぐるみや法被を着用、にぎやかな空気でも満たされた中の開催でした。驚いたのは入居者さんの元気な姿。例えば、もぐらたたきゲームは電球が中に入ったシートがあり、点灯したもぐらの居場所をハンマーで叩くゲームです。思わず舌を巻くほどの俊敏さで格好良かったです。入居者みなさんが安心して心を許しているのは、気遣いと寄り添いのケアを受けているからこそなのではと思い

ます。子ども縁日の時間はたくさん笑顔の中終了しました。その場にいるだけで心がほどける、良い時間を過ごしました。



i-zeのスペースでは、きりがみアートでコマを作るワークショップを開催

<地域news 東京都府中市  
2025/10/27 (月) >

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>